

前橋中央通り商店街

いちにちワーゲン博物館

2023年6月25日(日)

各地からいろいろなワーゲンが集まります。

※予告なく中止、変更になる場合があります

2009年から恒例となっていた
「いちにちワーゲン博物館」再開です。
前橋中央通り商店街に各地からワーゲン
が集まります。
どんなワーゲンが集まるでしょうか。
懐かしい昔のワーゲンの姿を
お楽しみ下さい。

■開催日時 2023年6月25日(日)

9:00～ グルグルキャラバン

10:00～15:00 展示

■会場 前橋中央イベント広場

前橋中央通り商店街アーケードの一部

■どなたでも無料でご覧いただけます

■展示参加のVWも募集しています

ご自分のワーゲンと一緒に、イベントを楽し
みましょう。

詳細はホームページに掲載。または下記
事務局まで問い合わせください。



中央通り商店街に集まったワーゲンたち

協賛 前橋中央通り商店街振興組合

後援 公益財団法人 前橋市まちづくり公社

KdF VOLKSWAGEN owners club OF JAPAN

事務局 〒371-0024 群馬県前橋市表町1-8-8

信沢あつし&えりこ Atsushi:070-5468-8330 Eriko:080-1206-9318

HP: <http://volkswagen-japan.cocolog-nifty.com/blog>

e-mail: vw_web_news@infoseek.jp

フォルクスワーゲン・ビートルの歴史

1938年KdF WAGENの発表



1934年6月22日、フェルディナント・ポルシェ氏とドイツ自動車工業会が契約をすることで、国民車としてVWビートルの歴史が始まりました。何度かの試作車を経て、1938年にその後2,153万台生産されることとなるVWビートルが発表されました。これにはヒトラーにより「KdF WAGEN」と名付けられました。それはナチスドイツの運動の名前を取ったものでした。国民はクーポン券を買い金額に達するとビートルが届きました。この頃、ヒトラーはアウトバーンも国策として造っています。



リアウィンドウが2枚のスプリット。



戦時中のキューベルワゲン



水陸両用のシュビムワゲン

1938年に国民車として誕生したVWビートルでしたが、1939年には戦争により、VWビートルは軍用車に姿を変え、クーポンを買った国民には殆ど届けられませんでした。ドイツの敗戦後、荒廃したVWの工場はイギリス軍の管理下になりましたが、イギリス軍のアイバン・ハースト少佐により、残った部品で造られた20台のVWがイギリスに送られると、2,000台の注文が返ってきたのです。そして工場の復興が行われたのです。VWビートル第二幕のはじまりでした。



1954年のオーバルビートル

終戦直後から、フォルクスワーゲン・タイプ1として主にイギリスに輸出され、1949年に正式に世界へと輸出されます。敗戦国日本も1952年に車の販売が自由化されると3台のVWが輸入され、翌1953年には正式に販売されます。しかし、1954年に日本国政府により、国内メーカー保護もあり再び輸入車規制となり、日本へのVWの輸入は途絶え、当時買えたのは米軍と外国人だけでした。今、日本で走るこの時代のビートルの多くは1990年以降に輸入されたものです。



1957年モデルの最後のオーバルビートル



1961年モデルの1200



1965年モデルの1200

輸入車規制も特別な理由があれば購入できましたが医者、病院など少数でした。1960年商用車の輸入解禁でVWのバン(Type2)が、1965年に乗用車も解禁、1966年モデルから再びVWビートルが日本へと上陸するようになりました。1964年の東京オリンピックのドイツチームはヤナセが輸入したタイプ2が利用されましたが、コンビが1台とバンに窓をあげ、シートを追加したものが1台と、乗用車であるマイクロバスが輸入されたのは1966年モデルからで、非常に少数でした。

戦後、毎年改良され、外観も変わってきたビートルですが、輸入再開時の1966年モデルはバッテリーは「6ボルト」のままでしたが、それまでの1200に1300が追加になり、大人気でした。1967年になると外観も大きく変わり「12ボルト」になり、1500が追加され一段と人気となります。1973年の円の為替自由化が決まると「自由化で安くなります」とキャンペーンを行い、1972年より販売価格を1年前倒しをして下げ、ビートルの日本への輸入台数は一段と増えたのです。



1967年モデルの1500



1970年モデルの1300と2003年メキシコ製



クーペボディのタイプ3カルマン・ギア

1971年に新しいビートルが誕生します。フロントの足回りを新設計しトランクが広くなった「1302」です。1973年にはフロントウィンドーが丸くなった「1303」へと進化し、新しい1600ccを搭載した1302S、1303Sもありましたが、1975年で姿を消します。スタンダードなビートルはドイツでは1978年まで生産され、その後1992年までブラジルで、2003年にメキシコで最後の一台が生産され、総生産台数は2,000万台を超えたのです。この間にカル・マンギアやType3も誕生しています。



ワーゲンバスと親しまれるタイプ2